臺灣新民報 昭和十五年一月十二日（金曜日） 第一万四千三百六號 A （一）
（第二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）
臺灣日日新報 夕刊 一月一日 夕刊定価一部二錢
臺灣新民報社 臺北市榮町四丁目廿二番地 佐々木 舜一
發行所 臺北市榮町四丁目廿二番地 臺灣日日新報社 電話（五）七八五番
基隆支局 基隆市義重町一〇七番地 電話（二）
臺中支局 臺中市綠川町一丁目 電話（二）
臺南支局 臺南市本町二丁目 電話（長）五〇七番
花蓮港出張所 花蓮港街入船町
大阪支局 大阪市西區江戸堀上通二丁目
東京支局 東京市芝區櫻田本郷町三番地 電話（京）五番
日章 TRADE MARK 日章 NISSHO 複寫紙

臺灣新民報 夕刊

政局一新の決意
首相十三日表明か

【東京十一日發同盟】阿部首相は政局に對する陸軍側の見解に就き深甚の考慮を廻らしつつあり十日は再び秋田厚相、永田鐵相と會見重要意見の交換を遂げたが首相は四圍の情勢に鑑み愈よ政局一新の決意を固めたものの如く十二日の定例閣議において全閣僚に對し率直にその決意を述べ同日中に諸般の問題を整理した上遲くも十三日中には政局一新の決意を表明するものと見られるに至つた

陸軍の重要協議
政局安定方策に關し

【東京十日發同盟】陸軍では十日午後陸相官邸において荒木貞夫參謀總長閑院宮參謀次長以下部局の安定方策に關し重要協議をなした

在野五黨首會合
首相官邸で十三日

【東京十一日發同盟】政府は翼賛會の發會式當日たる來る十三日午後三時より首相官邸で開催することに決定、十二日は民政、久原、中島兩政友、安藤國同、安部社大五黨首に對し組閣經緯を說明した、なほ首相官邸には木戸幸一內相、阿部首相、野村外相、末次內相、吉田海相、小山農相、木村商相、橋田文相、石渡藏相、寺內陸相、永野海相、武藤軍務局長、岡軍務局長、池田企劃院總裁、富田內閣書記官長、町田內閣參與官、風見內閣書記官長、秋永內閣參與官、伊藤內閣參與官、星野內閣參與官、鈴木內閣參與官、藤田內閣參與官、鈴木內閣參與官、藤田內閣參與官、鈴木內閣參與官、藤田

臺北市の建國祭

豪華な種々の行事大體決定

輝くべき二千六百年を戴く二月十一日の建國祭に於ける台北市の行事は十日の關係者會合打合せの結果大體左の通り決定したが、更に詳細な具體案については審議の上發表である、尚この日台北州廳舊庁舎では來る紀元節當日を期し全國一百餘名が午後一時から職員を列べて宮城遙拜式を行ふ市になつて

▲旗行列　小公學校庭を出發して式典終了後全市の旗行列を行ふ

▲武道大會　武德殿及後庭のもとに午後一時より武道會に於て殿後庭園を開放して柔剣、弓道、銃刀の試合を行ふ

▲建國の夕　午後七時半より公會堂に於て開催する

▲旗行列　小公學校庭は式典終了後全市の旗行列を行ふ

▲武道大會　武德殿及後のもとに午後一時より武道會に於て殿後庭園を開放して柔剣、弓道、銃刀の試合を行ふ

▲建國の夕　午後七時半より公會堂に於て開催する

白衣の勇士たち

なつかしの内地へ歸還

かねて台北陸軍病院で加療中であつた白衣の勇士〇〇名は十一日午後一時三十三分台北發上り列車で基隆、門司、鳥栖、岡山、姫路、豊橋、其地へとかつて行つた

皇民化運動に拍車

臺北で都市敎化研究會を開く

本島人皇民化運動は時局の波にのつて更に拍車をかけ都市に於ける部落改良及び風紀衛生の徹底をみ、また各地敎化團體の活動と相俟つて著々成果を收めつつあるが當局ではこの成果をたしめ運動をピッチを進げる爲たつてをり本年度の行事として臺北の實情を檢討して台北市を中心に都市敎化研究會開催の計畫が立てられてゐる、

更生の喜び

國語講習所の老人達が年賀狀

台北市内の國語講習所、或ひは私立の國語講習所は、"皇民化は先づ國語の會得から"との一般本島人の自覺と共に年齢による國語不理解者の一部を除き殆ど當局の慫慂とによつて國語の通り非常な好成績を收めてゐるが、各國語講習所に於ても卒業生から入學した六十、六十の爺さん、婆さん達は先生のお膳で文字が讀けるやうになつたと世の中がパッと明るくなつたと云ふ風に昨年末年賀狀の書き方を教へたのを早初日は正に十一日からとなつた十日からといふ

風景で　ある、問答と同時にどうと笑ひ込んだアンは土底の笑ひと共に除いて様子は午後九時には全部員、

物凄い興亞の春場所

初日は前日午後五時に開場

【東京十一日發本社特電】初日照氣物凄く興亞の春場所大相撲も愈よ十一日初日を開けた、東西相撲酒に興味は深加したが"負知"迷は開催初日も何のその十日の午前十時頃から詰掛け東京の何時にない寒風に吹き曝されて開場を待つといふ熱心振り、國會も開催を餘つてお客さんに風邪をひかしては大變との親心から午後五時開場と云ふサービス、興亞常場所大相撲初日は正に十一日からとなつた十日からといふ

風景で　ある、問答と同時にどうと笑ひ込んだアンは土底の笑ひと共に除いて様子は午後九時には全部員、

上海に於ける支那方面艦隊陸戰隊觀兵式

七日午前十時から支那方面艦隊陸戰隊の觀兵式が及川司令官閱兵のもとに新公園にて行はれ終つて堂々たる市中行進を行つた　㊤及川司令官の閱兵　㊦堂々北四川路を大行進する我が陸戰隊

【海軍省許可濟】

極東舞踏場

和泉團長の談

タイ國最大の年中行事であるタイ國憲法記念祭は昨日十日を以て終つたが、十一日は國王誕生日、十二日は國母誕生日、十三日は新年祭と續いて行はれ併せて盤谷市は大變な賑ひを呈してゐる、

盤谷の臺灣見本市

豫期以上の成果を收む

日本人ホテルに滯在、會場の設備又は例年に着手した、十二月十日の開會式は國王陛下の御臨場を仰ぎ八日間に亘つて開催された、

小學校新入學の兒童

募集第一日に五十八名申込み

惡性中耳炎流行！

惡車夫

しきりに檢行

口論のあげく小刀で突殺す

犯人は四十分後に逮捕

橫綱武藏山

關係者によつて斷髮

勝利丸の乘員

無事に救ひ出さる

良書百選會

今晩の映畫

あすの天氣

今晩の放送

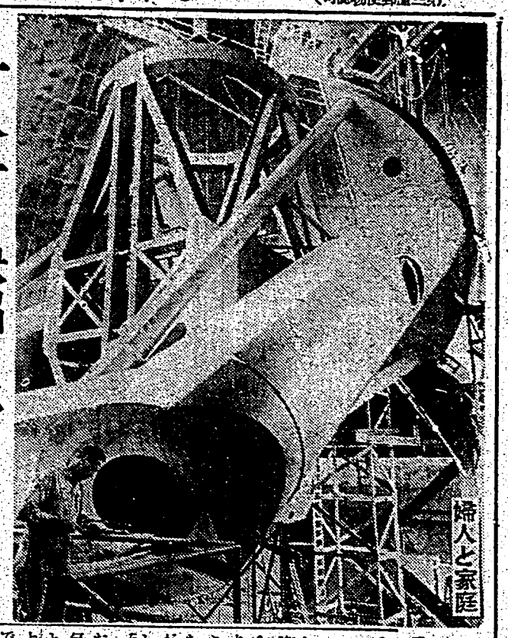
定期航空

中風・高血壓・神經痛は

血の濁りが原因

血液を淨化して　循環を良くすれば　治る

臺日藥房
臺日藥局
臺日藥店
臺日藥院
臺日藥舖
臺日藥行
臺日藥會社
臺日藥工場
臺日藥研究所
臺日藥株式會社
臺日藥株式會社本店
臺日藥株式會社支店
臺日藥株式會社出張所
臺日藥株式會社工場
臺日藥株式會社研究所
臺日藥株式會社本店支店出張所工場研究所


婦人と家庭

一人子は缺陷が多い 意思の教育が大切

醫學博士　三田谷啓

世間には「この子がたった一人なので」といつて、一人子を大切にしすぎ、可愛がりすぎる親が多いやうです、特に、女ばかりの中へたつた一人だけ男の子が生れたやうな場合や或ひは、夫婦が年寄つてから生れた子供の場合などもこれは當然の一人子にありがちな缺陷が、先ほど一人子にありがちな缺陷がこれはつてゐますから、同じやうな缺陷にかゝり易いやうです

一人子といふと、全般的に過保護が多く、神經質で、物事に飽き易く、食物は好き嫌ひが甚だしくて、我儘で、その上大膽がませツ子になります

そんな物を食べてはお腹をこはすよ、といつた風に、あまりうるさく注意しすぎ、干渉しすぎる結果一人子は强情になり、神經質になるのです、それで、平素から身體を鍛練するやうに努めるやうな子供ですと、子供同士で遊ぶ場合には決して轉ばるやうな心配はありません

○

物事に飽き易くて、根氣がなくなるのは、あまりいろ〳〵の玩具を與へ過ぎるからです、これではどうしても一つの物に熱中することは出來ません、統計上からいつても玩具の種類の多い子供ほど移り氣だといふことが證明されてゐます、たとへ一生懸命に繪かでも、あまり澤山の玩具を與へるのはよろしくありません

○

食物に好き嫌ひが出來るのは、一人子は過保護の中で遊ぶことが多く、常に運動不足で食慾が振はないのが一番大きな原因です

一人子の多くが神經質で我儘なのも、その生活環境がいつも一人ぼつちで非社交的な爲に自然人みしりをするやうになるのです、これを防ぐには、早くから幼稚園へ通はせるなどもよいことです、澤山の友達と一緒に、自由になんでも問題されないで、恰度におしやべりをしたり、喧嘩したりして、自然に社交の仕方や、我慢の仕方などを體得して行くことが出來ます、これが一人子には缺陷なやり方で、絶對の禁物であります

○

それから、一人子は、子供時代から家庭での他の大人達ばかりの間で過し勝ちで、年齢いろ〳〵の事を教へ込まれて早熟な子になる傾きがありますから、子供はなるべく子供同士で無邪氣に、元氣に快活になるやうに遊ばせることです、子供同士で遊ぶ場合には決して轉ばるやうな心配はありません

大人からみると、あんなつまらない事に……と思はれるやうな事を夢中になつてやつてゐます

○

子供には子供の世界があるのです、勿論、喧嘩もすれば、口論もするでせう、が、その代り子供同士はすぐケロリと忘れて仲直りをします、子供達は、かうして、子供の社交を學び、子供の立場、我の美しさなどを自分の體驗によつて發見し、慨り、自己を完成し築き上げてゆくのです、かくの如くに一人子には缺陷の教育をしないと、感じてから缺陷になつて發現し、世間に出て何も出來ないといふやうになります、一人子で甘やかされたために、大人になつて獨立心が乏しく、依頼心に富み、放任するやうになるといふ例は澤山あります、これは全く親の過つた愛の結果で、子供に同情する餘地が十分あります

○

興亞日本の第二國民たる子供はあらゆる點から見て、將來、國家のために働いてもらはなければならないのであります、これを考へる時、一人子だからといつて決して大事にしすぎて弱い子供にしないやうにくれぐれも世の御兩親方に、希ふ次第であります

書は心の香り

興亞のお誓古ごと

書を書く目的は、字が上手になるとか、手紙が能く書けるとかいふ事もありますが、一番大事なのは心の修養です、男子では書は心を落ちつけ、忍耐を拂ふとか申します、が、女子ではとても美しい美しい字になります、勝つた心や、負けない心があつてほしい書はできません、特に女性は書道が家庭生活の改善に大いに關係があります、男子でも多いのですが、書道は心を養ふ上に御婦人にこそ最も相應しい勢道です

○

一體書道といふものは他の藝術と違つて、例へば繪畫、音樂などの樣に色彩もなければ音もなくただ點と線との組合せで、あまりに地味すぎるために見られもしますが、それだけに、それだけが持つ崇高にして愼ましやかな藝術境であります、また、地味と云つても決しては美しいスバがあり又「書は心書なり」と

昔から云ふ位でいはば心の鏡でありますから御手習にも其人の氣分がはつきり現はれます、兎たつり髭つたところがあつては書品あるはできません、これは書に限つた事ではなく御婦人の製品はその心の美しさが外觀ににじみ出たものでなくてはなりません、書道の方でも先ほり同じ事です、書を學ぶ上に注意したいことは、多くの人が字の形にとらはれてそれだけを眞似ようとすることです、勿論字の形がきちんと整ふことも必要ですけれど書道の「魂」はその人の心の香りと勢ひにあります

「待て、暫らく待て！」とはやる兵士達をしづめつつ、ヒンデンブルグ將軍は、一部かに緩急よろしく指揮をとつてゐました。その時、チラと將軍の目に映じたのは、彼のポケットから抜け出した一老婦人の姿でありました。「愛に行方を捨ひ上げると、愛には「行方不明の子」彼の母とり」とある國の子」彼の母とり」とある

母、母、健氣な母、そしてこの御つけつ寄年士官、ヒンデンブルグ將軍の双眼は熱い涙にうるんだ。と同時に將軍は部下を叱つて「この寄年將校を早速病院に」

蜜柑の永持法

蜜柑がいく程もあるといふ時、なるべくいたまぬやうに貯へておきたいものです。

先づ蜜柑用には、濕氣は日光を嫌ひますから、なるべく暗い、涼しいところへ貯へるとよいです、腐敗のものなら、一度出して腐れを除くべなければなりません。蜜柑の腐れは傳染の早いので、一つ腐つたのを知らずにおくと、次から次へと腐つてしまひます。

一つ摘み始めると、次から次へとつづいてゆきます。

永く保たせるには、松の葉を利用します。蜜の底に松葉を敷いて、その上に蜜柑を一重宛し、また松葉を敷いて蜜柑を並べますかうして、蜜柑の多いだけ貯へるやうに、いつぱい詰めましたら、上に澤山松葉をのせて、蓋いところへ貯へておきます。

豆砲!?

アメリカ開發サンディアゴで製作せる世界最大の豆砲

でありません

○

つまり豆の形は、小さい、圓い出來ません、初めは一寸々々形と單位をよく呑み込んでその後から細字に移ると上達が早いものです

○

書道のもの程よいとして云はれてゐますが、これも嫌ふべきと同じことで新しい時代のものより萬事をよく呑み込んだ古人に後世の人の樣に突くはないが心の生活が藥科であつたからでせう、書き方に技巧のない素樸な心そのままの筆蹟にあらはれてゐますので、お手習の初心者には書のものをお手本になるやう心掛ります

一日に書のもの五つても色々ですが、まづ行成御の書をはじめ、空海風たちはなかく〳〵上手で深く支那では書聖と御の書がいでせう、藤原佐理、藤原良經などゝあり、大體には御文といふものがありますが、特に書の文字は藥品の高いので有名です、この時代のものに一手と云つて王羲之、王獻之の二人があります、どちらも千三百年も昔のものですから法帖となつてお手本がありますので古人の風格に自由に接することが出來

將軍の情け

—第一次歐洲大戰挿話—

送り、「一刻も早く手當せよ、そして傷の治る次第報の戰線に送り返けよ」と命じました。

タンネンベルヒの決戰は、遂にドイツの大勝するところになりましたが、この戰ひの後全く休戰して味方に送り返された負傷兵の數は實に數十萬の多きに上つて、戰に於ける將軍の武勳は上に、歐洲戰線の白となりました。

ヒンデンブルグ將軍は獨逸元帥兼大將となりましたが陸軍大學校長から、ロシア國境にある東プロシアのマスリン湖方面の濕地を視察してゐまして「突然」のあの報をうけたらしたので、歐洲大戰となるや、それが彼立つて、タンネルベルヒに於ける「獨逸の父」と仰がれる所以であります

雜誌紹介

▲新興（新年號）初作家號として、實感の人島木健作、藤森成吉、ゆく道（中山義秀）おゝかげ（高木白合子）川賀舟橋聖一）發動の發端（柴山義明）老年（中山義秀）をはじめてゐる坊主の田地（井上友一郎）新鋭作家良成（石川達三）わうと（高橋新吉）野良犬（石川達三）わかの日（高橋新吉）校長（岡田傳）等モーニング（舟橋聖一）今日まで（田畑修一郎）加藤武雄）花（木村荘八）鮮（今日出海）等の作品を掲載してゐる（文藝春秋社發行）

▲改造（一月號）昭和二十六年の豫言を題して、「向ふ六年間の國際情勢」（中山優）「現代支那の政治經濟」（尾崎秀實）「日本經濟の現狀」（笹本寅）「日本の農村」（橋本傳左衛門）「日本の人口」（舘稔）「日本の工業」（美濃部洋次）「日本の財政」（大藏公望）「日本の金融」（小汀利得）「日本の貿易」（小島精一）「日本の交通」（石川行夫）「日本の勞働」（赤松要）「日本の農業」（東畑精一）「日本の人口」（舘稔）等光川合玉堂等の時代と北斎、雪舟、雪山、光琳等の時代と對比して、日本文化の特質を考察するために大家數氏の（○○）二五日本文化論（○○）を掲載してゐる（改造社發行）

▲日本評論（一月號）昭和十六年の政治經濟を豫測して、「新年の政治」（蠟山政道）「新年の經濟」（大内兵衛）「新年の財政」（大藏公望）「新年の金融」（小汀利得）「新年の貿易」（小島精一）「新年の農業」（東畑精一）「新年の工業」（美濃部洋次）「新年の勞働」（赤松要）「新年の人口」（舘稔）「新年の交通」（石川行夫）「新年の國際情勢」（中山優）等の論文を掲載してゐる（日本評論社發行）

▲時の動向（一月號）（昭和十六年）第十八川豐臣（中山優）「新年の政治」（蠟山政道）「新年の經濟」（大内兵衛）「新年の財政」（大藏公望）「新年の金融」（小汀利得）「新年の貿易」（小島精一）「新年の農業」（東畑精一）「新年の工業」（美濃部洋次）「新年の勞働」（赤松要）「新年の人口」（舘稔）「新年の交通」（石川行夫）「新年の國際情勢」（中山優）等を掲載してゐる（時の動向社發行）

DISEPTAL＝4-(4-Aminobenzolsulfonamido)-benzolsulfondimethylamid… $H_2N⟨⟩SO_2NH⟨⟩SO_2N(CH_3)_2$ …… DISEPTAL＝4-(4-Aminobenzolsulfonamido)-benzolsul

二基スルフォンアミド剤ドミアン 國際最高規格品

化膿菌撲滅！ はルータプセチ

1 淋疾をはじめ膀胱炎・中耳炎・肺炎・腎盂炎・消炎・白帶下・腫物・膿疱等を起す細菌を一内服（一日三回二錠宛）だけで根絶させる國際最高規格品。

2 三—五日の短期間に、衝撃療法を完成する簡易・適確な化學療法として醫藥界の賞讃を集めてゐる。しかも、同類市販品中、純粹度最高の故に副作用の不安皆無。一錠〇・五瓦含有、二基スルフォンアミド劑中最も低廉に提供。

3 （〇〇・五一）錠百（〇五・三）錠二〇〇
（〇〇・五一）錠百（〇五・三）錠二〇〇
全國一流藥業店・百貨店
（で替玉等は皆の利益ですから下記注意へ絶對御中）

製造元　東京・池袋二丁目　中外新藥商會（東京芝蘭六六六六八）
代理店　東京・本町　小西新兵衛商店　大阪・道修町　安保喜商店

DISEPTAL＝4-(4-Aminobenzolsulfonamido)-benzolsulfondimethylamid

サムイト　イハヌ　クリコ　ノコ

送風機排風機及各種耐酸用排風機設計製作專門

株式會社 大阪送風機製作所

大阪市西成區津守町四丁目三二番地　電話櫻川三六二五・五一番

藥品　安住製藥　純本ルートカテキン　E-1

全身的に體力を充實

この方法ならどんな衰體も底力から抗病力增大し強健體になれる！

體の弱い人に、滋養劑だ、くすりだとさわぐ、しかしその結果は詰め込むやうに榮養物を攝つても、治ひるほど藥を服んでも、なかなか思ふやうに丈夫にもならず、病氣の回復もハカバカしくないのが、かうした人達の多くが經驗されるところであらう。

「美食」を「健康」を

してブラブラしてゐれば、或は體に肥肉がついて肥つかも知れぬが、脂肪がつき過ぎてのブクブク肥りは眞の健康ではない。外見だけ丈夫さうでも、シンが弱いのであるから、病魔にとらす病氣に罹り易く然かも一度かかると容易に治らない。

また胃腸病者が、徹底的療法を講ずず一時をさへの藥物で緩和したり、結核菌が解熱劑で熱を下げ、咳嗽止めを用ひて咳を止めるなどでその場しのぎをしてゐるのも同じことで、徹底的に身體のシンから强化したのでなければ、病氣も容易に治らぬのみか、一時的療法に日を費してゐる間に、病原はいよいよ根を張り强化して行くのである。

一五九七名の內一五九一名が體重增加す

ネオネオギーの主體は植物ホルモンであり、人體の活力賦生の根源と看られてゐる物質である。但し、植物ホルモンそのものは非常に微量で效力を發揮し物質であるから、このまゝでは服用に不便を感れぬため各種の强力なビタミンを配し、更に酵母「ユーアエ」をも加へた。酵母が人體に有效なのは主にビタミンBの作用によるのであるが、そのビタミンBは、植物ホルモンのやうな、相乘效果を齎し、體内の臟器活能動作用をもつ藥物と併用すると、いつそう效力が强くなることは考へねばならぬであらう。

但し、ネオネオギーにありては、ビタミンBの效力などは、あくまで添物的な效力であり、目的は何よりもシンから體力づけ、病氣を治し、積極的に體質を改善せしむるにある。

ネオネオギーは、かやうに全身的な體力抗病力の充實を目指すものであるから、些々たる效能の如きは甚に置くことを避ける。しかし、效力が根本的であり、全體增進、血色の良化、殊に全身に活力がつき風邪をひかぬやうになることが、ヘタキリと服用者に體驗するのは心强い點と思ふ。體重が增加することも、服用者に悦ばれてゐるが、研究所で行つた服用成績第一回調査では、一五九七名のうち一五九一名までが肥つたことが報告されてゐる。體力回復の生きた證據であらう

ネオネオギーは三六〇錠入瓶一圓五十錢、一箇月三回分九圓、全國藥店にある。植物ホルモン藥は本品のみ故購入に際し御注意ありたし。

直接のお申込は左記へ（ハガキにて申込のあつた方へは送り返されてゐる物質のみの代金引換便で發送のつもりである。但し海外と植民地は振替貯金六八一二番へ振込乞

東京小石川區白山御殿町五

創製元　日本微生物研究所

ネオネオギー

馬に乗る猿

(47)

石川達三作

伊東顯畫

春日遲々（六）

弟子夫人は臨終をめくってるうちに、竹下社長がみづから筆作と称する歌を發見したのである。夫人には歌を解する素養はなかつた。それだけに詩の中の文句を良人の創作とばかり思ひこんでしまつた。そこには「乙だ心やいからむ」といふ一句があり、さらに「妻にぬるるわが心」といふ甚だせつない一句があつた。病に臥後の「ふみ子」のこうどうしてる」に至つては、直接に良人の胸に手を觸れて、良人の浮氣ごころの證據を突きつけられた感じであつた。

「あんた方がかんぼうかくして居やがつても、ちやんとここに書いてあるで、なも！」と夫人はまたけらけらと笑つた。これには社員たちも大解の苦笑が禁じ得なかつた。

「これを二階もらつて行きます わ」

夫人は困惑した社員たちを尻目にして立ちあがつた。

「あんた方は社長さんの味方で、みんなして私や虐待にしてゐりやうのやちやなも。うその酒をのむ時ばかり奥さん奥さんとお世辭を言やあしても、ちつとも油斷できやせんで、まあかたわれ！」

夫人は臨下に降りると、誰の顏も見ずに、方針ならと言はずに階段を登つて行つた。

「兄主さん、かけあつて來た。

「兄主は相好を崩して笑ひこうげた。

「もう駄目だ。關東さん歸つて來たら、百つたまを贈へられて、相當油をしぼられるぞ。あのおかみさんは强えからね」

かくの如き家庭の風雲を知るや知らずや、關東社長は總裁に在つて朝に夕にふみ子との寵愛を重ね、または二光寺邸の別莊落成や、また二光寺邸の別莊落成などと新水に新規をうかべ、盛々として我が世の春を謳歌してゐた。

婦るまへに一度國輔に乘り、社長令嬢吉美英子に特に招いて一夕の宴を張り、常川大合同の相談を動かないものにまで、まとめ上げた。

當日、汽車に乘るときには三人の美女が彼方此方まで見送つて來た二等車の大きな窓から彼は首を出して、古い新橋の春者を呼んだ。

「竹下さま、今度はいつ來てくださるの？」

と言ふほどのとある顏をして言つた。

「いつ來るかわからん」

ホームのベルが鳴り出んだ。

「四五日うちにまたいらつしやるわね」

「來るかも知れんが、しかし…」

汽車は動きだした。

「しかし、何ですの？」

「實はな、ほかに愛人が出來たでまあ、お前とは縁一切るでな、惡く思はんでやつてくれ」

はツと驚愕した美子の顏は、もうそこにうしろへ流れて行つた。

關東社長から電話で呼出しがかかつたのは、それから間もなくであつた。

「昨日は社長さんの味方で、みんなして私や虐待にしてゐりやうのやちやなも。うその酒をのむ時ばかり奥さん奥さんとお世辭を言やあしても、ちつとも油斷できやせんで、まあかたわれ！」

夫人は臨下に降りると、誰の顏も見ずに、方針ならと言はずに階段を登つて行つた。

「兄主さん、かけあつて來た。

「兄主は相好を崩して笑ひこうげた。

「もう駄目だ。關東さん歸つて來たら、百つたまを贈へられて、相當油をしぼられるぞ。あのおかみさんは强えからね」

かくの如き家庭の風雲を知るや知らずや、關東社長は總裁に在つて朝に夕にふみ子との寵愛を重ね、または二光寺邸の別莊落成や、また二光寺邸の別莊落成などと新水に新規をうかべ、盛々として我が世の春を謳歌してゐた。

婦るまへに一度國輔に乘り、社長令嬢吉美英子に特に招いて一夕の宴を張り、常川大合同の相談を動かないものにまで、まとめ上げた。

當日、汽車に乘るときには三人の美女が彼方此方まで見送つて來た二等車の大きな窓から彼は首を出して、古い新橋の春者を呼んだ。

「竹下さま、今度はいつ來てくださるの？」

と言ふほどのとある顏をして言つた。

相撲閑話

昔の本場所 谷風時代は三回

興行場所は江戸五ヶ所

東京大相撲は春場所から、これ迄の東西合同制を改めて、傳統の東西對抗制に復歸した。元來總元締より組織上の一體制で、東京大相撲に京都相撲を合併して大ノ里（大關）天龍（關脇）等多數の關西力士を率ゐて、組合脫ちの大相撲を開催する事になつたのだ、大正五年の春場所から、同年夏場所には遲ニ日間延長して十一日になつて居り、同年夏場所には遲ニ日間延長して十二日と、それが十四日間まで續いたが、實際所には又も二日延して十六日になつたのである。番組の理由は東も角として興行が續かる時に續けて置けと云ふ經營上の心配は見られ事は出來ない。役員年寄連は餘り大小に拘らず事を起した人々であるから、角里此點を置かざる譯まい。

×

正面機敏の好角振の間には春、夏の外に秋の興行を加へて年三回の興行にし一興行十日乃至十二日にすべしと云ふ意見がある。つまりいくら美味しい御馳走でもイヤと云ふ程出されては御滿ぜざるを得ない、と云ふのである——江戸時代には關ヶ原の春夏、秋の三回興行をやつてゐた時代もある。さうして「十日」と云ふ期間は安永七年（六代將軍時代）から大正以後迄續いた、頗る長い歴史を有つたのである。

×

勝つて驕らず、負けて悔いず、敗者は一勝に發憤とばかり、四五日の休養を與へる。同場、五五角、五四銀、七四桂、七二玉、六二步同金、同桂成、同香、三二角成、六六桂、六七玉、九九龍、七七桂の棋勢となつて差異は見れない、併し敗には必ずも勝つ强者な攻めを敢行せず共、二七桂後の實力は相當に有望なる。

加藤氏は二七桂は、銀に振迫を加へ五五角出を含むは勿論、新く指す事によつて、敵の態度の無理を延す事となつたので優勢形の充實であつた。

上手方、長考に沒頭す、之以上の幸福を許さぬ形勢となつた、こゝばといつて四五步打を避けると、九二飛、二四步打を避けると、九二飛、二四步打を避けると、九二飛、二四

臺灣日日新報
（第二版）（明治卅一年一月九日第三種郵便物認可）昭和十五年一月二十一日（金曜日）
第一万四千三百六號 （一）

澳門政廳の不誠意
我當局遺憾とす

【東京十一日發同盟】澳門國民黨支部では去る九日第一次黨員會を開會、大いに反日氣勢を擧げたが、これは去る九月澳門政廳が我が國果出先當局に通告せる抗日分子取締に關する嚴重なる措置に對し不滿を表明するの意味に於て開かれたもので、當日の抗日氣勢の態度は不穩當極まりなきものと云ふべく、又我方當局に於ては日本人旅行者に對し執拗なる危險を與へつゝあるの實が益々濃厚となりつゝある

英空軍ジ島を爆撃

【ロンドン十日發同盟】イギリス空軍省公表

イギリス空軍機は九日午北海上のドイツ軍根據地偵察飛行を行ひジルト島に爆彈を投じた

政局の急速收拾
重臣方面も痛感
善處要望發表取止め

【東京十一日發同盟】陸軍首腦の改局に關する決意に依り國内重臣をはじめ政界各方面に於ては首相の決意開陳後に於ける方針に就いて夫々憶測を逞しうし擧國一致體制の下に新たなる考慮を廻らし以て一日も速かに政局收拾の方途を講ずる必要を痛感し、一日午前河原田文相と會談懇談會後直ちに、松非荷大藏大臣と約三十分間に亘つて隔意なき意見の交換を行ひ國民の理解と協力を得て重臣方面でも問題が解く進展化した

國境の圖上確定
第二回會議で審議

【東京十一日發同盟】ノモンハン附近國境を確定すべき滿蘇國境委員會は去る七日ハルビンにおける第一回會議を開催したが十日午十一時より滿洲國側議長官舍に第二回會議が開かれたので右に關し外務當局情報部より十一日午後十一時左の如く發表された

滿蘇國境確定委員會の滿洲國側委員ユニヤケ

【東京十一日發同盟】滿蘇國境確定委員會第十回會議は昭和十五年一月十日ハルビンに於て開催され、滿洲國側より中島總務廳次長（政友）原口（政友）、河野（政友）、牧野（政友）、河野（政友）、中村、松永産業部次長、小山、赤松、濱崎、田中、今井、滿鐵時局問題委員會の諸氏出席、蘇國側は世界人會で申合せた政府に對する善處要望事項

連絡部長官會議の第一日

【東京十一日發同盟】國境決定を見たる歐洲の安定確保中央政務に對する根本方策に於ては地側として滿洲國側代表ジヤムサロン氏主催の下に開催せられ、國境の圖上確定に關する問題の審議を開行せり、次回會議は一月十二日哈爾濱にて開くべし

海鷲、桂林を空襲
二十三機を撃滅
敵百四十機と交戰

【上海十一日發同盟】艦隊報道部發表―海軍航空部隊は昨年末龍州上空において敵機二十餘を撃墜して敵空軍に一大打撃を與へたるところ更に敵殘存航空兵力の殲滅を期し十日午後我が精鋭部隊の大編隊をもつて突如桂林を奇襲し同地上空及び飛行場内において敵機二十三機を撃滅し我方は何等の被害なく全機無事歸還せり、即ち樞端中佐及び五十嵐大尉の指揮する有力部隊は同日午後一時頃桂林上空において挑戰し來れる敵イ―十四、十五及十六型戰闘機百四十機と激烈なる空中戰闘を初め内十四機を撃墜したる後更に敵の熾烈なる防禦砲火を衝き桂林飛行場内に折柄空戰直後着陸中の敵戰闘機群に對し巨彈を浴せその九機を確實に炎上せしめたる外城内中央部五ヶ所に大火災を生せしめ甚大なる戰果を收めた

敵機撃滅數五五
昨年末來の海鷲活躍

【上海十一日發同盟】艦隊報道部發表（一）海軍航空部隊は九日廣東省廣州灣飛行場を爆撃、同地敵機十數機を撃墜し又地上施設を徹底的に破壊炎上せしめたり（二）南寧飛行場に對しては昨年末來の海鷲活躍に關し次の如き報告を受けたり

【上海十一日發同盟】艦隊報道部發表（一）昨年末來の海軍航空部隊の活躍に關し左の如き報告を受けたり（二）南寧飛行場に對しては昨年末來の海鷲活躍に關し次の如き報告を受けたり

寶陽（廣西）周邊を爆撃

【上海十一日發同盟】艦隊報道部發表（一）海軍航空部隊は九日廣西省寶陽飛行場を爆撃、同地敵機多數を撃墜炎上せしめたり（二）南寧飛行場に對しては昨年末來の海鷲活躍に關し次の如き報告を受けたり

柳川長官の渡支

柳川興亞院政務長官は十一日から臺北で開かれる南洋關係部長官會議に出席の筈十日羽田發支那派遣軍司令部へ向ふ（羽田空港の柳川長官）

大迂回作戰で占領
大穢山地區の敵の中心據點を

【南京十一日發同盟】第五師團主力を以つて編成せる我軍は四日未明以來大穢山地區の敵に對し大迂回作戰を實施しつつあるが我軍は四日午前十時頃大穢山の東北方約十粁の地點を占領した、一方廣州西方二十五粁附近に在る我一部隊は十日午前九時頃より攻撃を開始し午後一時頃遂に同地を占領した

敵同志武力衝突
山西省内三箇所で

【大原十日發同盟】山西省内に於ける共産軍、山西軍、中央軍の入亂れての同士打は日とともに激化してゐるが最近大原に還した國軍政府の關係者は次の如く三ヶ所に於ける衝突について發表してゐる

一、山西軍第六十一軍長趙承綬は赤化した山西第二十四軍及びその殘餘となつてゐる晉城附近の共産軍に對し、一月一日午後總攻撃を開始し、一月二日午後四時頃晉城西南方約二十粁の地點に於て共産軍と激戰中であるが、共産軍は晉城を死守せんとして頑強に抵抗してゐる

二、山西軍第二十四軍長朱懐冰（日下左記）と第十七軍長孫楚（中央軍系）とは久しく對立抗爭を續けてゐたが遂に昨年十二月十一日大正街（潞城附近）一帶の地區で衝突、機關銃迫撃砲を以つて激戰を交へた

三、山西軍第六十一軍長趙承綬は中央軍系の第十七軍長孫楚と對立抗爭を續けてゐたが遂に昨年十二月十一日大正街（潞城附近）一帶の地區で衝突、機關銃迫撃砲を以つて激戰を交へた

潮汕地方の邦人
事變前の約二倍

【廣東十一日發同盟】昨年の潮汕地區掃蕩、潮汕地方への邦人の進出は目覺ましく、昨年末現在における在留邦人數は千百十七名（男八百名、女三百十七名）に達し、事變前の約二倍に上つて居り今後益々增加の趨勢にある、尚これを職業別に見ると會社員二百五十九名で一番多く次は實業家百四十二名（全て本島人）であり、また之を出身別に見ると內地人四百二十二名に對し台灣人六百三十一名、半島人六十四名である

ソ聯領内に
赤軍を撃退

【ニューヨーク十日發特約電報】（ヘルシンキ來電）ソ蘭國境方面に於ては十日午前零時頃ソ軍は國境を越えて侵入を開始したが、これに對し國境守備隊は之を撃退した、ソ軍は赤軍の大部隊に對し砲撃を開始したが、これに對し國境守備隊は之を撃退した、ソ軍は赤軍の大部隊に對し砲撃を開始したが、これに對し國境守備隊は之を撃退した

外相、陸相と
久原氏懇談

【東京十一日發同盟】久原政務委員は十一日午後四時外相官邸に總裁は十一日午後四時外相官邸に

獨英空中戰を
丁抹人は目撃

【ロンドン十日發特約電報】デンマークよりの報道に依れば十日獨逸水雷艇地（ヘリゴランド島と同水上機基地スリット島に配置）と空に於て英國空軍との大空中戰が展開したスリット島に近いデンマーク領のデンマーク人は午前六時、同九時正午と更に午後と連續的に二回發たる爆音を聞き、湖水上機がスリット島から海を飛び立つて戰闘に加はるのを目撃した、然しこの戰闘に於てスリット島と獨本土を繋ぐヒンデンブルグ鐵道鐵橋に英空軍の爆撃が命中して鐵道は破壊され獨逸軍一隊がデンマーク領に不時着、一隊は海中に墜落した

獨ソ國境劃定及び
修好條約調印式

（右、リッベントロップ獨外相、左ビシンスキー・ソビエット全權大使）

海鷲、桂林を空襲
二十三機を撃滅
敵百四十機と交戰

【上海十一日發同盟】艦隊報道部發表―海軍航空部隊は昨年末龍州上空において敵機二十餘を撃墜して敵空軍に一大打撃を與へたるところ更に敵殘存航空兵力の殲滅を期し十日午後我が精鋭部隊の大編隊をもつて突如桂林を奇襲し同地上空及び飛行場内において敵機二十三機を撃滅し我方は何等の被害なく全機無事歸還せり、即ち樞端中佐及び五十嵐大尉の指揮する有力部隊は同日午後一時頃桂林上空において挑戰し來れる敵イ―十四、十五及十六型戰闘機百四十機と激烈なる空中戰闘を初め内十四機を撃墜したる後更に敵の熾烈なる防禦砲火を衝き桂林飛行場内に折柄空戰直後着陸中の敵戰闘機群に對し巨彈を浴せその九機を確實に炎上せしめたる外城内中央部五ヶ所に大火災を生せしめ甚大なる戰果を收めた

重工業人民委員
ス書記長が罷免

【ニューヨーク十日發特約電報】モスクワ來電、スターリン統治記長はソ聯政府部内の重要地位たる重工業人民委員を更迭しソ聯重工業の再建に着手した、即ち十日ソ聯政府は戰爭第一局に付き能一二局一部分なし（法務局元に付き能一二局一部分なし（法務局元に付き能一二局一部分なし（法務局元

社說

新中央政權と日本の支援

獨立完成、共存が根本眼目

一

新國民政府は、汪兆銘氏を中心とする支那新中央政府樹立に關する聲明書並に基本方策を樹立し、今般該政府の成立發展を強力に支持すべき事を中外に聲明したが、此の帝國の基本方針は汪氏に對する大局に於ける同政府の眞價の主張と共に多大の感銘と共に、新中央政府樹立工作に急速に進展せるものと期待される。汪氏を中心とする新政權運動は、臨時維新兩政府の如き消極的暫時的のものとは全然趣を異にし、支那の全國的統一を目的とするが故に、國際正義の觀點に立脚し、日滿支三國の緊密なる提携を以て東亞新秩序の建設を目標とするものであるから、從つて帝國としても新政權に對して、最大の同情と支援を與へ、新中央政府樹立工作を急速に進展せしめんが爲め、帝國の眞意を汪氏を中心とする新政權當事者に對し、明確に理解せしめんことを期するものである。

二

汪氏を中心とする新支那中央政權が成立するに當つては、日本と支那との關係が從來とは全く異つた新しい基礎の上に立つことは勿論であるが、從つて日本が新政權を支援せんとするのは、支那の主權を損ひ或は獨立を侵犯するものに非ずして、即ち其の獨立完成の爲に、又其の發展進展の爲に協力支援を與へんとする善意を公約してゐるのである。實に日本の新政權支援は八紘一宇の大精神に基く當然の義務であつて、英國やソ聯の如く對支援助の名に於てその獨立を侵し、支那の國本を危くするものとは全く選を異にするのである。此の點を支那民衆に十分に認識させ、此の點に立脚して初めて支那の日本に對する信賴も亦湧く、從つて又其の支援の實效擧る所多大なるを期待し得るのである。

三

而して又日本が新政權を支援せんとするのは、支那に於ける同盟國の士と相携へて善隣友好、共存共榮の實を擧げ、經濟提携を原則とする東亞新秩序の建設に邁進せんとする爲に外ならない。

それにしても昨今のモロトフは全く忙しいらしい、外相としての國務の外に、ソ國としては絶好のチャンスを握つて、大きく いへばソ聯今後の運命を左右すべき非常時外交の處理に奮闘してゐる樣子は列國大公使との會見ぶりにも、交渉につく交渉、條約の締結、調印と一手に引受けて、まさに八面六臂の大活躍である。最近に大部屋の大官の一人が「自分は外交の事は何も知らないが、兎に角モロトフの手腕をもつてゐるといふ點だけは感心する」と語つたが、實に上手に大局を把握して

帝糖の電化工場

崁子脚製糖所を見る（上）

バガスのパルプ化を目標として製糖工場の電化を確定的に進行したものに日糖の玉井、南靖両工場があり、それに次では帝國製糖の崁子脚工場と鹽水港製糖の三製糖工場とが挙げられるが電化したのは一昨年で前期の製糖から此の両工場が電化施設の下に動き出したのであった、當帝糖の崁子脚工場を視察したところに特徴があり所謂實現したものとは違を異にしてゐる、記者は此の崁子脚工場を一昨年の製糖當時に一度視察に行つた切りで該工場はまだ一度も足を入れてゐないので、今回の視察は全く新しい感覚で見ることが出來た、當帝糖の崁子脚工場は今村常務取締役、高橋工場長の案内で一緒に同工場の中野農務係長、高橋工務係長から種々説明を聞き、大いに記事を認めることが出來た、記者は茲で昭和製糖時代に玉井苗栗の現在工場を視察したことがあるので崁子脚と玉井とを比較研究するの利便もあり、又今村常務取締役、高橋工場長も共に玉井工場の出身者であるので

激流（71）

（承前）

久生十蘭 作
伊勢良夫 畫

温室の中（六）

冬枝は、部屋に帰ると、外套をぬぐ間も惜しげに、花壇に植えられてぼんやりと立つている。

やるせない肌寒の感しや、久米に対する恐りや、憎悪として自覚のできないムラムラという感情に支配されて、冬枝の心を掻き乱し、いつまでたっても落着かせなかった。

眼の前の花壇の面に、久米が庭いて出て行った花壇があって、その際のところが久米の肩幅ぐらいとり崩れてある。

久米がこれを持って自分に迫って来た時は、恐怖と羞恥とは感なかったが、時が経つにつれてこの花壇の光を受けてキラキラと光ってる花壇を見ると、慄然に近い、ゾッとするような感覚を感じた。

今まで張り詰めてた久米に対する反動の為め、時限爆発的に弛緩されて、へナへナと膝が折れ、そのあとに羞恥と屈辱の感情だけが際のやうに残った。

冬枝の感覚なり考え方なりが、張りの感覚目な久米としては強過ぎることで、この一年の間、殺じてみたことの方がむしろ意外なくらゐだった。

二宮夫人に人知れない同情の情をよせるやうになつてからのへうげぶりは、自分でも眼を覆ひたくなるほどで、夜半、寒さと眠りから醒めた時などは、これは、と呆気にとられる思ひだった。

今迄にも、愛の経験がなかつた訳ではなく、さまざまな愛情の戯事で放縦な遊戯をしたこともあつたが、二宮夫人に対する愛情の中には、何かひどい魔性があつて、殿のやうにスタミナに理性を飲んでしまふ。

早くから感じてゐたのではあるが、二宮夫人に対する愛情の中には、自分の愛に対する渇望の情が含まれてゐるのだとこじつけてゐるが、それが並大抵にすきないことは自分でもよく知つてゐて、それだけに心の苦みがいよいよ複雑になり、屈辱なほどの感情に駆り立てられる。

二宮夫人に対するひそかな感情には割切的な干渉があつて、月の始め頃から急に忙まつて、中頃から終へかけてすこしづつさうつて行くやうなぐあひだつた。

ブラジル大使のレセプションで初めて二宮夫人に逢つたのが、ちやうど月始めだつたので、その日の部屋に飾られるやうな強烈な印象が二宮の感覚のうすいところに残つてゐて、かういふ不健康な感覚を起き起すのだといふことを、すつとあとになつてからやうやく自分で感つた。

さういふことはどうでもいいとして、二宮邸にたいして、仕事などはまるつきり手につかなくなつて

しまふ。閨の化粧を分析してゐるうちに、部屋に手紙をかいてゐる夫人の姿が浮かんだりして、無我夢中といつたていで東京へ出かけて行く。

麻布市電の三宮夫人の邸の近くにあるホテル・パンションに宿をとつて、日が暮れて真暗になると、外套の襟を立て帽子の前縁をひきさげて、邸のまはりを何といふことなくウロウロとうろつき廻る。三宮夫人の美しさに対する冬枝の感覚の仕方には、少々歪を帯た病的なところがあつて、美に対する崇拝者の潜在の仕方とあたかもよく似てゐた。

ミロのヴイナスの腰や、ラファエロの「聖家族」のマドンナに感ずる同じやうな美的感覚が、冬枝の心の波を揺すぶり、二宮夫人が近いところにゐると思ふだけで息へやうもない至福の情を感じた。

雨の夜は、雨に濡れたから得てそこここと門柱に隠れ、高い石垣越しに夫人の寝室の灯火を見る時夜が更けて雨状が消えるまでゐる、充ち足りたやうな、不安定やうな複雑な心を抱きながらベンションへ帰つて、すこし眠つぎる、寒々とした都会の上に冬枝にへるのだつた。

ラヂオ

【七・一〇】朝の体操、ラヂオ体操

【七・二〇】朝の修養（東京）岡部（代用動物園長）但馬（元満州国参議官）「満洲の印象」

【七・五〇】朝の経済（レコード）

【八・〇〇】ニュース

【八・一〇】時報世界大戦前夜の第二十二課（レコード）世界大戦前夜に於ける欧洲列強の動向

【八・二五】内閣情報部及陸軍省提供（東京）陸軍記事

【九・二五】内閣情報部及陸軍省提供（東京）陸軍記事

【九・四五】時報（日本放送協会提供）

【一〇・〇〇】初級の時間（第一）

【一〇・一五】家庭科理解（第一）

【一〇・四五】講演（東京）日本放送協会提供（東京）

【一一・〇〇】商況（第一）

【一一・一五】講演（東京）

【一一・三〇】講演（東京）

【一二・〇〇】昼休憩

【一二・〇五】昼休憩

【一二・一〇】昼休憩

【一二・一五】正午の時報（東京）

【一二・一五】昼休憩

【一二・三〇】昼休憩

【一二・四〇】ニュース

【一二・五〇】昼休憩

【一三・〇〇】ニュース

【一三・一〇】昼休憩

【一三・三〇】昼休憩

【一三・四〇】ニュース

【一三・五〇】昼休憩

【一四・〇〇】ニュース

【一四・一〇】昼休憩

【一四・三〇】昼休憩

【一四・四〇】ニュース

【一四・五〇】昼休憩

【一五・〇〇】ニュース

【一五・一〇】昼休憩

【一五・三〇】昼休憩

【一五・四〇】ニュース

【一五・五〇】英語ニュース

【一六・一〇】北京語ニュース

【一六・二五】広東語ニュース

【一六・五〇】時報（東京）

【一六・五五】北京語ニュース

【一七・一〇】広東語ニュース

【一七・二五】広東語ニュース

【一七・五〇】時報（東京）

【一八・〇〇】ニュース

【一八・一〇】講演（東京）

【一八・二五】講演（東京）

【一八・四〇】青年の時間（第一）

【一八・五五】青年の時間（第二）

【一九・一〇】講演（東京）

【一九・二五】講演（東京）

【一九・四〇】講演（東京）

【一九・五五】講演（東京）

【二〇・一〇】講演（東京）

【二〇・二五】講演（東京）

【二〇・四〇】講演（東京）

【二〇・五五】講演（東京）

【二一・一〇】講演（東京）

【二一・二五】講演（東京）

【二一・四〇】講演（東京）

【二一・五五】講演（東京）

【二二・一〇】講演（東京）

【二二・二五】講演（東京）

【二二・四〇】講演（東京）

【二二・五五】講演（東京）

【二三・一〇】講演（東京）

【二三・二五】講演（東京）

【二三・四〇】講演（東京）

【二三・五五】講演（東京）

【二四・一〇】講演（東京）

【二四・二五】講演（東京）

【二四・四〇】講演（東京）

【二四・五五】講演（東京）

【二五・一〇】講演（東京）

【二五・二五】講演（東京）

【二五・四〇】講演（東京）

【二五・五五】講演（東京）

【二六・一〇】講演（東京）

【二六・二五】講演（東京）

【二六・四〇】講演（東京）

【二六・五五】講演（東京）

【二七・一〇】講演（東京）

【二七・二五】講演（東京）

【二七・四〇】講演（東京）

【二七・五五】講演（東京）

【二八・一〇】講演（東京）

【二八・二五】講演（東京）

【二八・四〇】講演（東京）

【二八・五五】講演（東京）

【二九・一〇】講演（東京）

【二九・二五】講演（東京）

【二九・四〇】講演（東京）

【二九・五五】講演（東京）

【三〇・一〇】講演（東京）

【三〇・二五】講演（東京）

【三〇・四〇】講演（東京）

【三〇・五五】講演（東京）

【三一・一〇】講演（東京）

【三一・二五】講演（東京）

【三一・四〇】講演（東京）

【三一・五五】講演（東京）

【三二・一〇】講演（東京）

【三二・二五】講演（東京）

【三二・四〇】講演（東京）

【三二・五五】講演（東京）

【三三・一〇】講演（東京）

【三三・二五】講演（東京）

【三三・四〇】講演（東京）

【三三・五五】講演（東京）

【三四・一〇】講演（東京）

【三四・二五】講演（東京）

【三四・四〇】講演（東京）

【三四・五五】講演（東京）

【三五・一〇】講演（東京）

【三五・二五】講演（東京）

【三五・四〇】講演（東京）

【三五・五五】講演（東京）

【三六・一〇】講演（東京）

【三六・二五】講演（東京）

【三六・四〇】講演（東京）

【三六・五五】講演（東京）

【三七・一〇】講演（東京）

【三七・二五】講演（東京）

【三七・四〇】講演（東京）

【三七・五五】講演（東京）

【三八・一〇】講演（東京）

【三八・二五】講演（東京）

【三八・四〇】講演（東京）

【三八・五五】講演（東京）

【三九・一〇】講演（東京）

【三九・二五】講演（東京）

【三九・四〇】講演（東京）

【三九・五五】講演（東京）

【四〇・一〇】講演（東京）

【四〇・二五】講演（東京）

【四〇・四〇】講演（東京）

【四〇・五五】講演（東京）

【四一・一〇】講演（東京）

【四一・二五】講演（東京）

【四一・四〇】講演（東京）

【四一・五五】講演（東京）

【四二・一〇】講演（東京）

【四二・二五】講演（東京）

【四二・四〇】講演（東京）

【四二・五五】講演（東京）

【四三・一〇】講演（東京）

【四三・二五】講演（東京）

【四三・四〇】講演（東京）

【四三・五五】講演（東京）

【四四・一〇】講演（東京）

【四四・二五】講演（東京）

【四四・四〇】講演（東京）

【四四・五五】講演（東京）

【四五・一〇】講演（東京）

【四五・二五】講演（東京）

【四五・四〇】講演（東京）

【四五・五五】講演（東京）

【四六・一〇】講演（東京）

【四六・二五】講演（東京）

【四六・四〇】講演（東京）

【四六・五五】講演（東京）

【四七・一〇】講演（東京）

【四七・二五】講演（東京）

【四七・四〇】講演（東京）

【四七・五五】講演（東京）

【四八・一〇】講演（東京）

【四八・二五】講演（東京）

【四八・四〇】講演（東京）

【四八・五五】講演（東京）

【四九・一〇】講演（東京）

【四九・二五】講演（東京）

【四九・四〇】講演（東京）

【四九・五五】講演（東京）

【五〇・一〇】講演（東京）

【五〇・二五】講演（東京）

【五〇・四〇】講演（東京）

【五〇・五五】講演（東京）

【五一・一〇】講演（東京）

【五一・二五】講演（東京）

【五一・四〇】講演（東京）

【五一・五五】講演（東京）

【五二・一〇】講演（東京）

【五二・二五】講演（東京）

【五二・四〇】講演（東京）

【五二・五五】講演（東京）

【五三・一〇】講演（東京）

【五三・二五】講演（東京）

【五三・四〇】講演（東京）

【五三・五五】講演（東京）

【五四・一〇】講演（東京）

【五四・二五】講演（東京）

【五四・四〇】講演（東京）

【五四・五五】講演（東京）

【五五・一〇】講演（東京）

【五五・二五】講演（東京）

【五五・四〇】講演（東京）

【五五・五五】講演（東京）

【五六・一〇】講演（東京）

【五六・二五】講演（東京）

【五六・四〇】講演（東京）

【五六・五五】講演（東京）

【五七・一〇】講演（東京）

【五七・二五】講演（東京）

【五七・四〇】講演（東京）

【五七・五五】講演（東京）

【五八・一〇】講演（東京）

【五八・二五】講演（東京）

【五八・四〇】講演（東京）

【五八・五五】講演（東京）

【五九・一〇】講演（東京）

【五九・二五】講演（東京）

【五九・四〇】講演（東京）

【五九・五五】講演（東京）

【六〇・一〇】講演（東京）

【六〇・二五】講演（東京）

【六〇・四〇】講演（東京）

【六〇・五五】講演（東京）

【六一・一〇】講演（東京）

【六一・二五】講演（東京）

【六一・四〇】講演（東京）

【六一・五五】講演（東京）

【六二・一〇】講演（東京）

【六二・二五】講演（東京）

【六二・四〇】講演（東京）

【六二・五五】講演（東京）

【六三・一〇】講演（東京）

【六三・二五】講演（東京）

【六三・四〇】講演（東京）

【六三・五五】講演（東京）

【六四・一〇】講演（東京）

【六四・二五】講演（東京）

【六四・四〇】講演（東京）

【六四・五五】講演（東京）

【六五・一〇】講演（東京）

【六五・二五】講演（東京）

【六五・四〇】講演（東京）

【六五・五五】講演（東京）

【六六・一〇】講演（東京）

【六六・二五】講演（東京）

【六六・四〇】講演（東京）

【六六・五五】講演（東京）

【六七・一〇】講演（東京）

【六七・二五】講演（東京）

【六七・四〇】講演（東京）

【六七・五五】講演（東京）

【六八・一〇】講演（東京）

【六八・二五】講演（東京）

【六八・四〇】講演（東京）

【六八・五五】講演（東京）

【六九・一〇】講演（東京）

【六九・二五】講演（東京）

【六九・四〇】講演（東京）

【六九・五五】講演（東京）

【七〇・一〇】講演（東京）

【七〇・二五】講演（東京）

【七〇・四〇】講演（東京）

【七〇・五五】講演（東京）

【七一・一〇】講演（東京）

【七一・二五】講演（東京）

【七一・四〇】講演（東京）

【七一・五五】講演（東京）

【七二・一〇】講演（東京）

【七二・二五】講演（東京）

【七二・四〇】講演（東京）

【七二・五五】講演（東京）

【七三・一〇】講演（東京）

【七三・二五】講演（東京）

【七三・四〇】講演（東京）

【七三・五五】講演（東京）

【七四・一〇】講演（東京）

【七四・二五】講演（東京）

【七四・四〇】講演（東京）

【七四・五五】講演（東京）

【七五・一〇】講演（東京）

【七五・二五】講演（東京）

【七五・四〇】講演（東京）

【七五・五五】講演（東京）

【七六・一〇】講演（東京）

【七六・二五】講演（東京）

【七六・四〇】講演（東京）

【七六・五五】講演（東京）

【七七・一〇】講演（東京）

【七七・二五】講演（東京）

【七七・四〇】講演（東京）

【七七・五五】講演（東京）

【七八・一〇】講演（東京）

【七八・二五】講演（東京）

【七八・四〇】講演（東京）

【七八・五五】講演（東京）

【七九・一〇】講演（東京）

【七九・二五】講演（東京）

【七九・四〇】講演（東京）

【七九・五五】講演（東京）

【八〇・一〇】講演（東京）

【八〇・二五】講演（東京）

【八〇・四〇】講演（東京）

【八〇・五五】講演（東京）

【八一・一〇】講演（東京）

【八一・二五】講演（東京）

【八一・四〇】講演（東京）

【八一・五五】講演（東京）

【八二・一〇】講演（東京）

【八二・二五】講演（東京）

【八二・四〇】講演（東京）

【八二・五五】講演（東京）

【八三・一〇】講演（東京）

【八三・二五】講演（東京）

【八三・四〇】講演（東京）

【八三・五五】講演（東京）

【八四・一〇】講演（東京）

【八四・二五】講演（東京）

【八四・四〇】講演（東京）

【八四・五五】講演（東京）

【八五・一〇】講演（東京）

【八五・二五】講演（東京）

【八五・四〇】講演（東京）

【八五・五五】講演（東京）

【八六・一〇】講演（東京）

【八六・二五】講演（東京）

【八六・四〇】講演（東京）

【八六・五五】講演（東京）

【八七・一〇】講演（東京）

【八七・二五】講演（東京）

【八七・四〇】講演（東京）

【八七・五五】講演（東京）

【八八・一〇】講演（東京）

【八八・二五】講演（東京）

【八八・四〇】講演（東京）

【八八・五五】講演（東京）

【八九・一〇】講演（東京）

【八九・二五】講演（東京）

【八九・四〇】講演（東京）

【八九・五五】講演（東京）

【九〇・一〇】講演（東京）

【九〇・二五】講演（東京）

【九〇・四〇】講演（東京）

【九〇・五五】講演（東京）

【九一・一〇】講演（東京）

【九一・二五】講演（東京）

【九一・四〇】講演（東京）

【九一・五五】講演（東京）

【九二・一〇】講演（東京）

【九二・二五】講演（東京）

【九二・四〇】講演（東京）

【九二・五五】講演（東京）

【九三・一〇】講演（東京）

【九三・二五】講演（東京）

【九三・四〇】講演（東京）

【九三・五五】講演（東京）

【九四・一〇】講演（東京）

【九四・二五】講演（東京）

【九四・四〇】講演（東京）

【九四・五五】講演（東京）

【九五・一〇】講演（東京）

【九五・二五】講演（東京）

【九五・四〇】講演（東京）

【九五・五五】講演（東京）

【九六・一〇】講演（東京）

【九六・二五】講演（東京）

【九六・四〇】講演（東京）

【九六・五五】講演（東京）

【九七・一〇】講演（東京）

【九七・二五】講演（東京）

【九七・四〇】講演（東京）

【九七・五五】講演（東京）

【九八・一〇】講演（東京）

【九八・二五】講演（東京）

【九八・四〇】講演（東京）

【九八・五五】講演（東京）

【九九・一〇】講演（東京）

【九九・二五】講演（東京）

【九九・四〇】講演（東京）

【九九・五五】講演（東京）

【一〇〇・一〇】講演（東京）

【一〇〇・二五】講演（東京）

【一〇〇・四〇】講演（東京）

【一〇〇・五五】講演（東京）

【一〇一・一〇】講演（東京）

【一〇一・二五】講演（東京）

【一〇一・四〇】講演（東京）

【一〇一・五五】講演（東京）

【一〇二・一〇】講演（東京）

【一〇二・二五】講演（東京）

【一〇二・四〇】講演（東京）

【一〇二・五五】講演（東京）

【一〇三・一〇】講演（東京）

【一〇三・二五】講演（東京）

【一〇三・四〇】講演（東京）

【一〇三・五五】講演（東京）

【一〇四・一〇】講演（東京）

【一〇四・二五】講演（東京）

【一〇四・四〇】講演（東京）

【一〇四・五五】講演（東京）

【一〇五・一〇】講演（東京）

【一〇五・二五】講演（東京）

【一〇五・四〇】講演（東京）

【一〇五・五五】講演（東京）

【一〇六・一〇】講演（東京）

【一〇六・二五】講演（東京）

【一〇六・四〇】講演（東京）

【一〇六・五五】講演（東京）

【一〇七・一〇】講演（東京）

【一〇七・二五】講演（東京）

【一〇七・四〇】講演（東京）

【一〇七・五五】講演（東京）

【一〇八・一〇】講演（東京）

【一〇八・二五】講演（東京）

【一〇八・四〇】講演（東京）

【一〇八・五五】講演（東京）

【一〇九・一〇】講演（東京）

【一〇九・二五】講演（東京）

【一〇九・四〇】講演（東京）

【一〇九・五五】講演（東京）

【一一〇・一〇】講演（東京）

【一一〇・二五】講演（東京）

【一一〇・四〇】講演（東京）

【一一〇・五五】講演（東京）

【一一一・一〇】講演（東京）

【一一一・二五】講演（東京）

【一一一・四〇】講演（東京）

【一一一・五五】講演（東京）

【一一二・一〇】講演（東京）

【一一二・二五】講演（東京）

【一一二・四〇】講演（東京）

【一一二・五五】講演（東京）

【一一三・一〇】講演（東京）

【一一三・二五】講演（東京）

【一一三・四〇】講演（東京）

【一一三・五五】講演（東京）

【一一四・一〇】講演（東京）

【一一四・二五】講演（東京）

【一一四・四〇】講演（東京）

【一一四・五五】講演（東京）

【一一五・一〇】講演（東京）

【一一五・二五】講演（東京）

【一一五・四〇】講演（東京）

【一一五・五五】講演（東京）

【一一六・一〇】講演（東京）

【一一六・二五】講演（東京）

【一一六・四〇】講演（東京）

【一一六・五五】講演（東京）

【一一七・一〇】講演（東京）

【一一七・二五】講演（東京）

【一一七・四〇】講演（東京）

【一一七・五五】講演（東京）

【一一八・一〇】講演（東京）

【一一八・二五】講演（東京）

【一一八・四〇】講演（東京）

【一一八・五五】講演（東京）

【一一九・一〇】講演（東京）

【一一九・二五】講演（東京）

【一一九・四〇】講演（東京）

【一一九・五五】講演（東京）

【一二〇・一〇】講演（東京）

【一二〇・二五】講演（東京）

【一二〇・四〇】講演（東京）

【一二〇・五五】講演（東京）

【一二一・一〇】講演（東京）

【一二一・二五】講演（東京）

【一二一・四〇】講演（東京）

【一二一・五五】講演（東京）

【一二二・一〇】講演（東京）

【一二二・二五】講演（東京）

【一二二・四〇】講演（東京）

【一二二・五五】講演（東京）

【一二三・一〇】講演（東京）

【一二三・二五】講演（東京）

【一二三・四〇】講演（東京）

【一二三・五五】講演（東京）

【一二四・一〇】講演（東京）

【一二四・二五】講演（東京）

【一二四・四〇】講演（東京）

【一二四・五五】講演（東京）

【一二五・一〇】講演（東京）

【一二五・二五】講演（東京）

【一二五・四〇】講演（東京）

【一二五・五五】講演（東京）

【一二六・一〇】講演（東京）

【一二六・二五】講演（東京）

【一二六・四〇】講演（東京）

【一二六・五五】講演（東京）

【一二七・一〇】講演（東京）

【一二七・二五】講演（東京）

【一二七・四〇】講演（東京）

【一二七・五五】講演（東京）

【一二八・一〇】講演（東京）

【一二八・二五】講演（東京）

【一二八・四〇】講演（東京）

【一二八・五五】講演（東京）

【一二九・一〇】講演（東京）

【一二九・二五】講演（東京）

【一二九・四〇】講演（東京）

【一二九・五五】講演（東京）

【一三〇・一〇】講演（東京）

【一三〇・二五】講演（東京）

【一三〇・四〇】講演（東京）

【一三〇・五五】講演（東京）

【一三一・一〇】講演（東京）

【一三一・二五】講演（東京）

【一三一・四〇】講演（東京）

【一三一・五五】講演（東京）

【一三二・一〇】講演（東京）

【一三二・二五】講演（東京）

【一三二・四〇】講演（東京）

【一三二・五五】講演（東京）

【一三三・一〇】講演（東京）

【一三三・二五】講演（東京）

【一三三・四〇】講演（東京）

【一三三・五五】講演（東京）

【一三四・一〇】講演（東京）

【一三四・二五】講演（東京）

【一三四・四〇】講演（東京）

【一三四・五五】講演（東京）

【一三五・一〇】講演（東京）

【一三五・二五】講演（東京）

【一三五・四〇】講演（東京）

【一三五・五五】講演（東京）

【一三六・一〇】講演（東京）

【一三六・二五】講演（東京）

【一三六・四〇】講演（東京）

【一三六・五五】講演（東京）

【一三七・一〇】講演（東京）

【一三七・二五】講演（東京）

【一三七・四〇】講演（東京）

【一三七・五五】講演（東京）

【一三八・一〇】講演（東京）

【一三八・二五】講演（東京）

【一三八・四〇】講演（東京）

【一三八・五五】講演（東京）

【一三九・一〇】講演（東京）

【一三九・二五】講演（東京）

【一三九・四〇】講演（東京）

【一三九・五五】講演（東京）

【一四〇・一〇】講演（東京）

【一四〇・二五】講演（東京）

【一四〇・四〇】講演（東京）

【一四〇・五五】講演（東京）

【一四一・一〇】講演（東京）

【一四一・二五】講演（東京）

【一四一・四〇】講演（東京）

【一四一・五五】講演（東京）

【一四二・一〇】講演（東京）

【一四二・二五】講演（東京）

【一四二・四〇】講演（東京）

【一四二・五五】講演（東京）

【一四三・一〇】講演（東京）

【一四三・二五】講演（東京）

【一四三・四〇】講演（東京）

【一四三・五五】講演（東京）

【一四四・一〇】講演（東京）

【一四四・二五】講演（東京）

【一四四・四〇】講演（東京）

【一四四・五五】講演（東京）

【一四五・一〇】講演（東京）

【一四五・二五】講演（東京）

【一四五・四〇】講演（東京）

【一四五・五五】講演（東京）

【一四六・一〇】講演（東京）

【一四六・二五】講演（東京）

【一四六・四〇】講演（東京）

【一四六・五五】講演（東京）

【一四七・一〇】講演（東京）

【一四七・二五】講演（東京）

【一四七・四〇】講演（東京）

【一四七・五五】講演（東京）

【一四八・一〇】講演（東京）

【一四八・二五】講演（東京）

【一四八・四〇】講演（東京）

【一四八・五五】講演（東京）

【一四九・一〇】講演（東京）

【一四九・二五】講演（東京）

【一四九・四〇】講演（東京）

【一四九・五五】講演（東京）

【一五〇・一〇】講演（東京）

【一五〇・二五】講演（東京）

【一五〇・四〇】講演（東京）

【一五〇・五五】講演（東京）

【一五一・一〇】講演（東京）

【一五一・二五】講演（東京）

【一五一・四〇】講演（東京）

【一五一・五五】講演（東京）

【一五二・一〇】講演（東京）

【一五二・二五】講演（東京）

【一五二・四〇】講演（東京）

【一五二・五五】講演（東京）

【一五三・一〇】講演（東京）

【一五三・二五】講演（東京）

【一五三・四〇】講演（東京）

【一五三・五五】講演（東京）

【一五四・一〇】講演（東京）

【一五四・二五】講演（東京）

【一五四・四〇】講演（東京）

【一五四・五五】講演（東京）

【一五五・一〇】講演（東京）

【一五五・二五】講演（東京）

【一五五・四〇】講演（東京）

【一五五・五五】講演（東京）

【一五六・一〇】講演（東京）

【一五六・二五】講演（東京）

【一五六・四〇】講演（東京）

【一五六・五五】講演（東京）

【一五七・一〇】講演（東京）

【一五七・二五】講演（東京）

【一五七・四〇】講演（東京）

【一五七・五五】講演（東京）

【一五八・一〇】講演（東京）

【一五八・二五】講演（東京）

【一五八・四〇】講演（東京）

【一五八・五五】講演（東京）

【一五九・一〇】講演（東京）

【一五九・二五】講演（東京）

【一五九・四〇】講演（東京）

【一五九・五五】講演（東京）

【一六〇・一〇】講演（東京）

【一六〇・二五】講演（東京）

【一六〇・四〇】講演（東京）

【一六〇・五五】講演（東京）

【一六一・一〇】講演（東京）

【一六一・二五】講演（東京）

【一六一・四〇】講演（東京）

【一六一・五五】講演（東京）

【一六二・一〇】講演（東京）

【一六二・二五】講演（東京）

【一六二・四〇】講演（東京）

【一六二・五五】講演（東京）

【一六三・一〇】講演（東京）

【一六三・二五】講演（東京）

【一六三・四〇】講演（東京）

【一六三・五五】講演（東京）

【一六四・一〇】講演（東京）

【一六四・二五】講演（東京）

【一六四・四〇】講演（東京）

【一六四・五五】講演（東京）

【一六五・一〇】講演（東京）

【一六五・二五】講演（東京）

【一六五・四〇】講演（東京）

【一六五・五五】講演（東京）

【一六六・一〇】講演（東京）

【一六六・二五】講演（東京）

【一六六・四〇】講演（東京）

【一六六・五五】講演（東京）

【一六七・一〇】講演（東京）

【一六七・二五】講演（東京）

【一六七・四〇】講演（東京）

【一六七・五五】講演（東京）

【一六八・一〇】講演（東京）

【一六八・二五】講演（東京）

【一六八・四〇】講演（東京）

【一六八・五五】講演（東京）

【一六九・一〇】講演（東京）

【一六九・二五】講演（東京）

【一六九・四〇】講演（東京）

【一六九・五五】講演（東京）

【一七〇・一〇】講演（東京）

【一七〇・二五】講演（東京）

【一七〇・四〇】講演（東京）

【一七〇・五五】講演（東京）

【一七一・一〇】講演（東京）

【一七一・二五】講演（東京）

【一七一・四〇】講演（東京）

【一七一・五五】講演（東京）

【一七二・一〇】講演（東京）

【一七二・二五】講演（東京）

【一七二・四〇】講演（東京）

【一七二・五五】講演（東京）

【一七三・一〇】講演（東京）

【一七三・二五】講演（東京）

【一七三・四〇】講演（東京）

【一七三・五五】講演（東京）

【一七四・一〇】講演（東京）

【一七四・二五】講演（東京）

【一七四・四〇】講演（東京）

【一七四・五五】講演（東京）

【一七五・一〇】講演（東京）

【一七五・二五】講演（東京）

【一七五・四〇】講演（東京）

【一七五・五五】講演（東京）

【一七六・一〇】講演（東京）

【一七六・二五】講演（東京）

【一七六・四〇】講演（東京）

【一七六・五五】講演（東京）

【一七七・一〇】講演（東京）

【一七七・二五】講演（東京）

【一七七・四〇】講演（東京）

【一七七・五五】講演（東京）

【一七八・一〇】講演（東京）

【一七八・二五】講演（東京）

【一七八・四〇】講演（東京）

【一七八・五五】講演（東京）

【一七九・一〇】講演（東京）

【一七九・二五】講演（東京）

【一七九・四〇】講演（東京）

【一七九・五五】講演（東京）

【一八〇・一〇】講演（東京）

【一八〇・二五】講演（東京）

【一八〇・四〇】講演（東京）

【一八〇・五五】講演（東京）

【一八一・一〇】講演（東京）

【一八一・二五】講演（東京）

【一八一・四〇】講演（東京）

【一八一・五五】講演（東京）

【一八二・一〇】講演（東京）

【一八二・二五】講演（東京）

【一八二・四〇】講演（東京）

【一八二・五五】講演（東京）

【一八三・一〇】講演（東京）

【一八三・二五】講演（東京）

【一八三・四〇】講演（東京）

【一八三・五五】講演（東京）

【一八四・一〇】講演（東京）

【一八四・二五】講演（東京）

【一八四・四〇】講演（東京）

【一八四・五五】講演（東京）

【一八五・一〇】講演（東京）

【一八五・二五】講演（東京）

【一八五・四〇】講演（東京）

【一八五・五五】講演（東京）

【一八六・一〇】講演（東京）

【一八六・二五】講演（東京）

【一八六・四〇】講演（東京）

【一八六・五五】講演（東京）

【一八七・一〇】講演（東京）

【一八七・二五】講演（東京）

【一八七・四〇】講演（東京）

【一八七・五五】講演（東京）

【一八八・一〇】講演（東京）

【一八八・二五】講演（東京）

【一八八・四〇】講演（東京）

【一八八・五五】講演（東京）

【一八九・一〇】講演（東京）

【一八九・二五】講演（東京）

【一八九・四〇】講演（東京）

【一八九・五五】講演（東京）

【一九〇・一〇】講演（東京）

【一九〇・二五】講演（東京）

【一九〇・四〇】講演（東京）

【一九〇・五五】講演（東京）

【一九一・一〇】講演（東京）

【一九一・二五】講演（東京）

【一九一・四〇】講演（東京）

【一九一・五五】講演（東京）

【一九二・一〇】講演（東京）

【一九二・二五】講演（東京）

【一九二・四〇】講演（東京）

【一九二・五五】講演（東京）

【一九三・一〇】講演（東京）

【一九三・二五】講演（東京）

【一九三・四〇】講演（東京）

【一九三・五五】講演（東京）

【一九四・一〇】講演（東京）

【一九四・二五】講演（東京）

【一九四・四〇】講演（東京）

【一九四・五五】講演（東京）

【一九五・一〇】講演（東京）

【一九五・二五】講演（東京）

【一九五・四〇】講演（東京）

【一九五・五五】講演（東京）

【一九六・一〇】講演（東京）

【一九六・二五】講演（東京）

【一九六・四〇】講演（東京）

【一九六・五五】講演（東京）

【一九七・一〇】講演（東京）

【一九七・二五】講演（東京）

【一九七・四〇】講演（東京）

【一九七・五五】講演（東京）

【一九八・一〇】講演（東京）

【一九八・二五】講演（東京）

【一九八・四〇】講演（東京）

【一九八・五五】講演（東京）

【一九九・一〇】講演（東京）

【一九九・二五】講演（東京）

【一九九・四〇】講演（東京）

【一九九・五五】講演（東京）

【二〇〇・一〇】講演（東京）

【二〇〇・二五】講演（東京）

【二〇〇・四〇】講演（東京）

【二〇〇・五五】講演（東京）

【二〇一・一〇】講演（東京）

【二〇一・二五】講演（東京）

【二〇一・四〇】講演（東京）

【二〇一・五五】講演（東京）

【二〇二・一〇】講演（東京）

【二〇二・二五】講演（東京）

【二〇二・四〇】講演（東京）

【二〇二・五五】講演（東京）

【二〇三・一〇】講演（東京）

【二〇三・二五】講演（東京）

【二〇三・四〇】講演（東京）

【二〇三・五五】講演（東京）

【二〇四・一〇】講演（東京）

【二〇四・二五】講演（東京）

【二〇四・四〇】講演（東京）

【二〇四・五五】講演（東京）

【二〇五・一〇】講演（東京）

【二〇五・二五】講演（東京）

【二〇五・四〇】講演（東京）

【二〇五・五五】講演（東京）

【二〇六・一〇】講演（東京）

【二〇六・二五】講演（東京）

【二〇六・四〇】講演（東京）

【二〇六・五五】講演（東京）

【二〇七・一〇】講演（東京）

【二〇七・二五】講演（東京）

【二〇七・四〇】講演（東京）

【二〇七・五五】講演（東京）

【二〇八・一〇】講演（東京）

【二〇八・二五】講演（東京）

【二〇八・四〇】講演（東京）

【二〇八・五五】講演（東京）

【二〇九・一〇】講演（東京）

【二〇九・二五】講演（東京）

【二〇九・四〇】講演（東京）

【二〇九・五五】講演（東京）

【二一〇・一〇】講演（東京）

【二一〇・二五】講演（東京）

【二一〇・四〇】講演（東京）

【二一〇・五五】講演（東京）

【二一一・一〇】講演（東京）

【二一一・二五】講演（東京）

【二一一・四〇】講演（東京）

【二一一・五五】講演（東京）

【二一二・一〇】講演（東京）

【二一二・二五】講演（東京）

【二一二・四〇】講演（東京）

【二一二・五五】講演（東京）

【二一三・一〇】講演（東京）

【二一三・二五】講演（東京）

【二一三・四〇】講演（東京）

【二一三・五五】講演（東京）

【二一四・一〇】講演（東京）

【二一四・二五】講演（東京）

【二一四・四〇】講演（東京）

【二一四・五五】講演（東京）

【二一五・一〇】講演（東京）

【二一五・二五】講演（東京）

【二一五・四〇】講演（東京）

【二一五・五五】講演（東京）

【二一六・一〇】講演（東京）

【二一六・二五】講演（東京）

【二一六・四〇】講演（東京）

【二一六・五五】講演（東京）

【二一七・一〇】講演（東京）

【二一七・二五】講演（東京）

【二一七・四〇】講演（東京）

【二一七・五五】講演（東京）

【二一八・一〇】講演（東京）

【二一八・二五】講演（東京）

【二一八・四〇】講演（東京）

【二一八・五五】講演（東京）

【二一九・一〇】講演（東京）

【二一九・二五】講演（東京）

【二一九・四〇】講演（東京）

【二一九・五五】講演（東京）

【二二〇・一〇】講演（東京）

【二二〇・二五】講演（東京）

【二二〇・四〇】講演（東京）

【二二〇・五五】講演（東京）

【二二一・一〇】講演（東京）

【二二一・二五】講演（東京）

【二二一・四〇】講演（東京）

【二二一・五五】講演（東京）

【二二二・一〇】講演（東京）

【二二二・二五】講演（東京）

【二二二・四〇】講演（東京）

【二二二・五五】講演（東京）

【二二三・一〇】講演（東京）

【二二三・二五】講演（東京）

【二二三・四〇】講演（東京）

【二二三・五五】講演（東京）

【二二四・一〇】講演（東京）

【二二四・二五】講演（東京）

【二二四・四〇】講演（東京）

【二二四・五五】講演（東京）

【二二五・一〇】講演（東京）

【二二五・二五】講演（東京）

【二二五・四〇】講演（東京）

【二二五・五五】講演（東京）

【二二六・一〇】講演（東京）

【二二六・二五】講演（東京）

【二二六・四〇】講演（東京）

【二二六・五五】講演（東京）

【二二七・一〇】講演（東京）

【二二七・二五】講演（東京）

【二二七・四〇】講演（東京）

【二二七・五五】講演（東京）

【二二八・一〇】講演（東京）

【二二八・二五】講演（東京）

【二二八・四〇】講演（東京）

【二二八・五五】講演（東京）

【二二九・一〇】講演（東京）

【二二九・二五】講演（東京）

【二二九・四〇】講演（東京）

【二二九・五五】講演（東京）

【二三〇・一〇】講演（東京）

【二三〇・二五】講演（東京）

【二三〇・四〇】講演（東京）

【二三〇・五五】講演（東京）

【二三一・一〇】講演（東京）

【二三一・二五】講演（東京）

【二三一・四〇】講演（東京）

【二三一・五五】講演（東京）

【二三二・一〇】講演（東京）

【二三二・二五】講演（東京）

【二三二・四〇】講演（東京）

【二三二・五五】講演（東京）

【二三三・一〇】講演（東京）

【二三三・二五】講演（東京）

【二三三・四〇】講演（東京）

【二三三・五五】講演（東京）

【二三四・一〇】講演（東京）

【二三四・二五】講演（東京）

【二三四・四〇】講演（東京）

【二三四・五五】講演（東京）

【二三五・一〇】講演（東京）

【二三五・二五】講演（東京）

【二三五・四〇】講演（東京）

【二三五・五五】講演（東京）

【二三六・一〇】講演（東京）

【二三六・二五】講演（東京）

【二三六・四〇】講演（東京）

【二三六・五五】講演（東京）

【二三七・一〇】講演（東京）

【二三七・二五】講演（東京）

【二三七・四〇】講演（東京）

【二三七・五五】講演（東京）

【二三八・一〇】講演（東京）

【二三八・二五】講演（東京）

【二三八・四〇】講演（東京）

【二三八・五五】講演（東京）

【二三九・一〇】講演（東京）

【二三九・二五】講演（東京

葬祭は一切内地式
東石郡で改善會を結成して
違反した僧侶は厳罰

【朴子電話】稿く昔記一千六百年を經た吾國固有の美風淳朴及び企圖する台灣固有の國粹保存及び企圖する台灣固有の國粹保存及び企圖する台灣固有の國粹保存

讀書普及

主催　臺灣日日新報社

書物放浪（八一）

郡司大尉

西川滿

郡司大尉の屍を、船の多い少年にとつて、此上ないあこがれであつた。私は父から聞いた話を、小学校へ通ふ道々、友人に披露して、如何にそれが誇りさはやかなものであつたかを感激させずにはおかなかつた。

年とつた今でも、私どもは空想の楽しみにしてゐる私のことだから、話をしてゐると、あたかも自分が郡司大尉にでもなつたかのやうな気がして、日頃は滅多にくせについ饒舌めるのことでかし、ために「軽人形」なる綽名を頂戴したこともあつた。

○

あれはいつであつたか、東京で白襟中佐の肖像彫刻のポーズになつた話題を見、感慨まつて筆を執つた。

○

たしかに、雪中凱陣シベリアを防衛する旅順中佐の勲風や、雄々しくも千島駐行の途に就かんとする郡司大尉の悲壮は、あの

我が民間航空界に大飛躍時代來る

各線に新鋭機を就航

【東京十一日發同盟】日タイ定期航空を初め目下開設中の南洋、南支、滿洲各線は一大飛躍を遂げることになつたがこれに對して國內ローカル線も根本的擴充を行ふことになり、これに關連して逓信省では航空關係豫算として總額四百萬圓を計上、目下大藏省と折衝中であるが、國內ローカル線とは、國際航空と直結する地方都市間の連絡航空路を指すもので、現在の計畫では第一期として札幌、仙臺、名古屋、大阪、福岡、熊本を結ぶ線と、第二期として新潟、金澤、岡山、廣島、松山、大分、宮崎、鹿兒島を結ぶ線とを實施することになつてゐるが、この內第一期線は既に民間航空會社の經營に移されてゐるので、逓信省としては第二期線の實施に重點を置き、昭和十六年度豫算に計上する豫定であるが、これに要する飛行機は約三十機、飛行場は約三十箇所、總經費は約二千萬圓を要する見込みである。

厦門に神社建立

督府から八板技師らを派遣

【厦門十一日發同盟】嘗て廿年來の懸案となつてゐた厦門市の鎭守たる廈門神社の建立問題に關し、今般總督府から八板技師、小川の兩氏が來る十九日廈門に出張の上、同地在住の有志と協議の上、最も適當な場所を選定することになつたが、總督府の方針としては、現在の海外發展の氣運に鑑み、本格的な神社たるべきことを主張してゐるので、今回の協議會に於ても、この點に關して相當の論議が交されるものと豫想されてゐる。

親族・相續篇の審議

結論に到達せず

近く委員會の再開へ

【東京十一日發同盟】民法改正調査委員會第一部會（親族・相續篇）は十一日午前十時から總會を開き、特別委員會の經過報告を爲したる後、引續き特別委員會を開き、相續法に關する審議を續けたが未だ結論に到達せず午後四時四十分散會した。次いで第二部會（物權・債權篇）に移り、相續法に關する特別委員會の經過報告を爲したる後、引續き特別委員會を開き、相續法に關する審議を續けたが未だ結論に到達せず午後四時四十分散會した。次いで第三部會（親族・相續

けふの好取組

櫻錦 ― 小島川

どつちも立つたら寸時もヂッとしてゐられない同士、小島川に例のドンと一發喰らわせて左差しで氣の若さにあれば横綱も小兵ながら右四つの窮地には天祭の呼ぶがある、一寸の隙も逃さず吸入らうとする執拗な攻撃には相撲は一枚上手の小島川も一寸困惑かならない、右と左の左味が明敏の分れ目となるが、何れにしても激しい一番である

四海波 ― 鍼ノ里

一寸強み氣味の鍼ノ里も今場所は番出もや分で元氣だと云ふから、新入綿万歳一杯の四海波と正面自に歩み出て来る、五ツ島は上背の利を利して立合に突張るか、之が破れば左の相四つ、苦味のない鍼ノ里に軍配のある四海波に右から上手投で出て持つて殺つたらそのまま寄へと出される様なことにならう、四海波も體重のある點につとり構へられたら歩が遠い、突張つても左四つから出味に出て早期に持つて四海波、一皇入つたら鍼ノ里と云ふ所だらう

五ツ島 ― 富士嵐

いつも立ち上が掴り込んで敏捷してゐるだが、五ツが立ちに突込んで一気に押し捲れば案外相手に一寸強み氣味の鍼ノ里も今場所は番出もや分で元氣だと云ふから、新入綿万歳一杯の四海波と正面自に歩み出て来る、五ツ島は上背の利を利して立合に突張るか、之が破れば左の相四つ、苦味のない鍼ノ里に軍配のある四海波に右から上手投で出て持つて殺つたらそのまま寄へと出される様なことにならう、四海波も體重のある點につとり構へられたら歩が遠い、突張つても左四つから出味に出て早期に持つて四海波、一皇入つたら鍼ノ里と云ふ所だらう

五ツ島 ― 富士嵐

いつも立ち上が掴り込んで敏捷してゐるだが、五ツが立ちに突込んで一気に押し捲れば案外相手に一寸強み氣味の鍼ノ里も今場所は番出もや分で元氣だと云ふから、新入綿万歳一杯の四海波と正面自に歩み出て来る、五ツ島は上背の利を利して立合に突張るか、之が破れば左の相四つ、苦味のない鍼ノ里に軍配のある四海波に右から上手投で出て持つて殺つたらそのまま寄へと出される様なことにならう、四海波も體重のある點につとり構へられたら歩が遠い、突張つても左四つから出味に出て早期に持つて四海波、一皇入つたら鍼ノ里と云ふ所だらう

綾昇 ― 佐賀花

左四つから四海波の出足鋭い寄りを武器とする佐賀花も右四つの苦味を武器とする綾昇の相四つだが、綾昇は綾昇が左四つの體勢きに佐賀の一枚となつてゐる、一體綾昇は佐賀の一枚に一気に出て来よく突張つて左を差す展開に出度

大相撲春場所

幕場所の相撲は十一日から開國國技館に於て開かれたが午前一時の前相撲開始から午後四時中入、この間十九人には東の双葉山には関大関羽黒山が從前通り大刀持を勤め、幕捲びが關脇、太刀持が大關と云ふ相撲会前景なの之に對する西の男女川は從前の宮十枚目、鍼ノ里が東へ廻つた為幕捲ひを笠置山、太刀持は綾昇で東西制揃ひと云ふ段取を調製したものであつた、四時半前場所優勝者双葉山より吐起、優勝旗返還、續いて優勝額の除幕式等あつて四時五十分幕内力士の取組に入つた、六枚目まで三對三の同点に次いで結の里、小島川の一番は立上るや右四つから鍼ノ里眞向勝ちに掛かつて小島川敗軍の一瞬左を首に巻いて東廻りへ大きく打振つて振捨はに小島に上つたが西の筵、從方から物言ひ付き、正面審判長の勝負決め立田川、中川以下総立ちで協議となつたが東の筵へ鍼ノ里、西へ男女川ず、復活第一場の初日は勝ち越ぶ、なお皇軍ひが勝利されて東西關の黒味はいやが上にも濃いものとなつた綱切りまでの勝負左の如し

勝負

関脇 川の里 ○ 鳴山
立田 野 ● 綱山
双葉山 ○ 羽黒
山行司 ○ 富田

一二三四五六七八九十十一十二十三十四十五十六十七大九

関脇 ○ 綱山
八幡 ● 國男
國男 ○ 光茨
關州 ● 山谷
加古川 ○ 若葉
若葉 ● 佐渡ヶ
佐渡ヶ ○ 十三
十三 ● 二瀬川
二瀬川 ○ 清美川
清美川 ● 四海波
四海波 ○ 中入錬